本誌に載らなかった土器田町内会のインタビューを紹介します。

土器田町内会には、日本語が話せても読めない、書けない、理解できないという外国人住民が多くて、言語の問題が一番の難関だったそうです。そこで、会長自ら説明資料をローマ字、ひらがな、カタカナにして、通訳ができる住民と一緒に１軒ずつ説明して回るなど、地道な努力を積み重ねられました。

５年経過した今では、他の自治体で対訳されている防災関連の資料を参考に、独自に英語、スペイン語、ポルトガル語などの啓発資料を作成して活用されています。同様に、町内会の配布物やアンケートなどの資料も全住民に理解いただけるように対応しているそうです。

文化の違いはあるものの、内容さえ理解してもらえれば、外国人住民も日本人と同じように行動することができ、協力的で家族的な付き合いができる関係を築くことができるようになったそうです。

子どもたちも協力的で、中学校の防災教室にも積極的に参加したりしてとても良い関係だと思います。

インタビューの最後に、防災訓練の様子や、昨年の夏祭りの写真を見せていただきました。そこには、人種や国籍・性別・年齢を越えて楽しんでいる様子と、愛情と信頼があふれた皆さんの笑顔がいっぱいでした。

今後も、この人々の笑顔を絶やさないでほしいと願うばかりです。

～外国人住民の世帯内訳～（インタビュー時）
ブラジル１３、ペルー３、バングラデシュ１、ベトナム２、台湾２、ミャンマー１、
フィリピン３　　合計２５世帯　４７人

～防災組織～

①　広報担当	②　地域安全担当	③　衛生担当
④　防災担当	⑤　救護担当	⑥　避難誘導担当

夏まつりなど楽しい行事では、役員さんや住民のみなさんの素敵な笑顔がいっぱいで、信頼関係が築かれていることがとても伝わってきました。